佐久市埋蔵文化財調査報告書　第167集

金井坂遺跡

長野県佐久市春日・協和金井坂遺跡発掘調査報告書

2009.3
佐　　久　　市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第167集

金井坂遺跡

長野県佐久市春日・協和金井坂遺跡発掘調査報告書

2009.3
佐　　久　　市
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は佐久市建設部道路建設課によるに道交付金事業道路改良工事　佐久市春日(東西幹線)に伴う金井坂遺跡の発掘調査報告書である。

2　事業主体者　佐久市中込3056　佐久市（建設部道路建設課）

3　調査主体者　佐久市中込3056　佐久市教育委員会　教育長　木内　清

4　遺跡名及び発掘調査所在地　　金井坂遺跡（ＭＫＫ）
佐久市春日3000-7番地先～佐久市協和8381-1番地先（第１調査区　佐久市協和8379-146. 8379-147、春日5060. 5061、第２調査区　佐久市協和8380-1・2・4・5）

5　調査担当者　上原　学

6　本書の編集・執筆は上原が行った。

7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　挿図の縮尺は以下の通りである。

遺構－塚状遺構　1/80　　階段状遺構　1/40

遺物－土器・陶器・石製品　1/4　　刀装具（ハバキ）　1/2

2　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

3　調査グリッドは小グリッド2×2・4×4m、大グリッド40×40mである。

目　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　第１節　立地と経過 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の環境と周辺遺跡
　第１節　自然環境 …… 2
　第２節　周辺遺跡 …… 3
　第３節　基本層序 …… 6

第Ⅲ章　調査体制と概要
　第１節　調査体制 …… 7
　第２節　遺構と遺物の詳細 …… 7

第Ⅳ章　調査の内容
　第１節　第１調査区 …… 7
　第２節　第２調査区 …… 13

写真図版

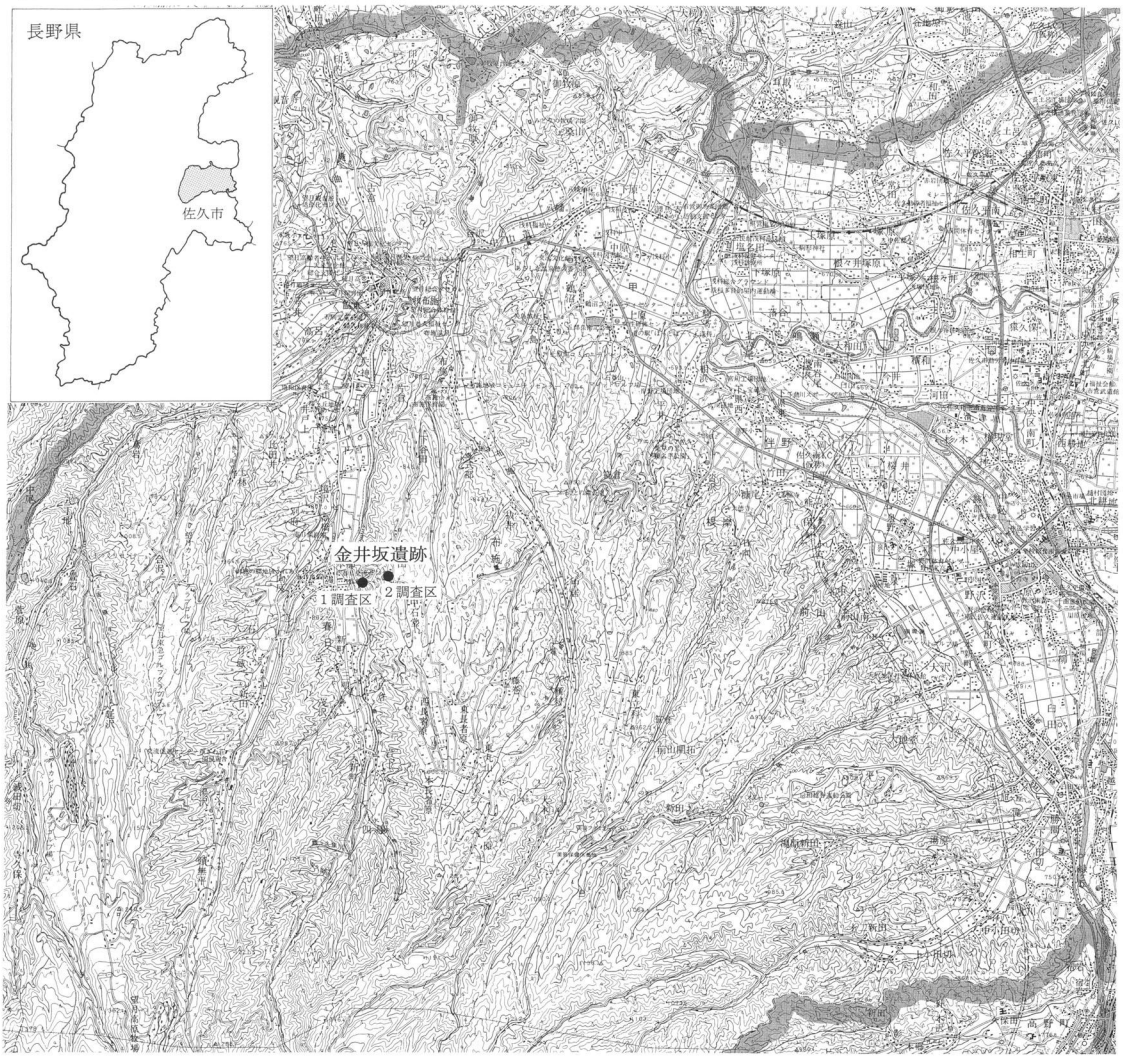
抄　　録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第1節　立地と経過

金井坂遺跡は、佐久市春日及び協和地籍の蓼科山から北方向に延びる丘陵周辺部に位置し、標高は777～874mを測る。周辺遺跡としては、西方向の鹿曲川・細小路川に浸食形成された谷底平野及び縁辺の低位な丘陵上に縄文時代から平安時代の遺跡が存在しており、この谷を挟んだ西方向の丘陵上には中世の山城である春日城跡を望むことができる。

今回、遺跡内を東西方向に蛇行しながら横断する道路建設が行われることとなり、事前に現地踏査及び試掘調査を実施した。結果、踏査によって丘陵頂部平坦地に塚状の盛り土されたと考えられる塚状遺構が、西方向に僅かに張り出した枝状支脈先端斜面地には馬頭観世音、御嶽信仰に関係する石碑等を祀った岩場などが認められ、試掘調査から土師器片等の遺物が出土した。試掘調査によって遺物を発見した地域は、遺構が認められなかったことから、調査は踏査によって発見した丘陵頂部の塚状遺構及び周辺部、丘陵西側の枝状支脈先端斜面地に祀られた石碑群周辺について佐久市教育委員会が主体となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。



金井坂遺跡位置図（1:100,000）

発掘調査位置図

第Ⅱ章　遺跡の環境と周辺遺跡

第１節　自然環境

佐久地域の地形は周囲を山地及び台地に囲まれ、中央には盆地状の平坦地が広がっている。北には雄大な浅間山、南には蓼科山、東は群馬県との境をなす関東山地、西は八重原、御牧ヶ原等の台地が広がり、中央を二分するかのように一級河川である千曲川が蛇行しながら通過する。

今回調査対象となった地域は佐久市の西方である旧望月町に位置し、南方の蓼科火山群には、東方から蓼科山、八子ヶ岳､大門峠、車山等が連り、調査区の南には円錐形の整った山頂を見せる蓼科山を望むことができる。この山麓には緩やかな裾野が発達し、南に向かって深い放射谷が多数認められ、鹿曲川、八丁地川、布施川等の河川による浸食作用によって沖積平地が形成されている。これらの平坦地は周辺の舌状に張り出した小高い丘陵地と共に古くから生活の舞台となっている。

また、蓼科山麓の北には標高700～800m程度の平坦面を持つ御牧ヶ原台地が発達し、東方から北方にかけて台地を回り込むように千曲川が急崖に沿って流れ、千曲川を隔てた東には佐久平が広がり、北は浅間山・鳥帽子火山群の裾野と接する。台地の西には鹿曲川が北流し、八重原台地との境をなしている。八重原台地は西端の小県郡との境に沿って南北に長い稜線が走り、この東側は幾筋かの河川を跨ぎ680～710m程度の平坦面が鹿曲川まで広がっている。北方は御牧ヶ原台地同様、急崖となり、千曲川を隔てて浅間山・鳥帽子火山群の裾野と接する。

今回調査を実施した金井坂遺跡は蓼科山から北流する布施川及び細小路川の浸食によって形成された谷底平野に挟まれた北方向に延びる丘陵の頂部周辺から西方向に僅か張り出した枝状支脈先端斜面地にかけて存在する。　　参考　望月町誌　自然編

第２節　周辺遺跡

金井坂遺跡(46)は、蓼科山北麓に発達した舌状の尾根頂部及び西斜面に位置する。旧望月町作成の遺跡地図によると、周辺の河川の浸食によって形成された谷底平野及び丘陵上には旧石器時代から中世の遺跡及び遺物の出土がみられる。

調査区周辺の旧石器時代として協和の八丁地川河岸段丘上に位置する西久保入遺跡表面採取の槍先形尖頭器が存在する。基部欠損の木葉状で、単独資料である。他に伴う資料が見受けられないことから遺跡は狩り場であったと想定している。

縄文時代になると、早期では西方の鹿曲川左岸、浄永坊遺跡(31)で茅山式期の住居址が２軒発見され、南方の細小路川左岸に位置する新水Ａ・Ｂ遺跡でも良好な遺物が出土している。この時期の遺跡数は全体的に少ない。前期では竹之城原遺跡(38)において、早期末から前期初頭にかけての住居址が、栃久保Ａ遺跡(24)では関山式期の住居址が発見されているが、この時代の遺跡数も早期同様少ない。中期になると遺跡数は増し、特に蓼科北麓の八丁地川、鹿曲川に集中する。遺跡は河川を望む低位な丘陵上及び河岸段丘上に展開する。調査地域の西方から北方向にかけて松原遺跡(20)、後沖遺跡(19)・池田遺跡(18)、金塚遺跡(15)・長林遺跡(12)等多くの遺跡が点在する。後沖遺跡(19)は、鹿曲川左岸の低位な尾根状台地に位置し、中期初頭から末葉までの住居址29軒、中期前葉から中葉の住居址20軒が発見されている。後期になると遺跡の発見地は現在のところ低湿地等水辺に近い地域に位置することが多いようである。この時期の遺跡としては、やや距離は離れるが北西方向の八丁地川左岸、協和に所在する平石遺跡があり、中期から後期の柄鏡形敷石住居が多数発見されている。遺跡数は中期に比して減少する。晩期では旧望月町地域全体を見ても遺跡数は激減する。代表的な遺跡は後期から継続する浦谷Ｂ遺跡(30)で晩期初頭である安行式期の遺物が、平石遺跡から終末から弥生と見られる氷式に近い様相を示す壷形土器が出土している。

弥生時代になると細小路川水系の遺跡は僅かで右岸の段丘上に所在する入片倉遺跡(59)から土器と磨製石鏃が表面採取されている。他は西方の鹿曲川水系となり、春日では昭和56年調査の金塚遺跡(15)から後期箱清水期の土器片、磨製石鏃が出土し、池田遺跡(18)からは以前、石包丁・環状石斧が、矢那田遺跡では太形蛤刃石斧や石槌が採取されたとされ、10遺跡程度が確認されている。

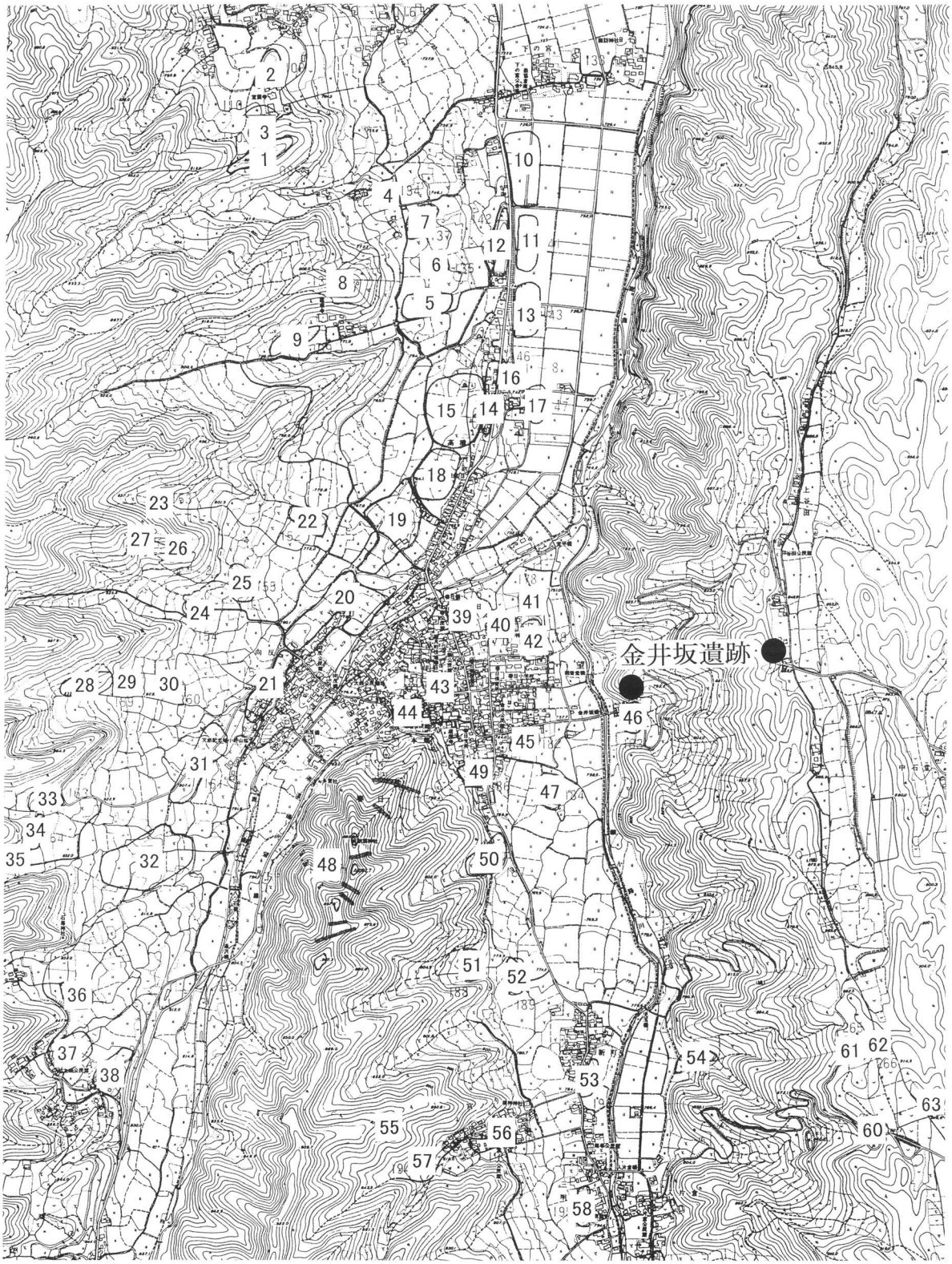
古墳時代では６世紀から７世紀中頃にかけて古墳が盛んに造られ、副葬品には馬具が副葬されていることが多く、牧との関係が伺える。細小路川上流に牧寄・牧寄浦・蹄ヶ沢が、鹿曲川上流には駒込の地名が残り、鹿曲川左岸には金塚古墳群(16)、栃久保古墳群(26)、姫塚古墳(8)等が存在する。金塚古墳群(16)は以前、十数基が存在したとされるが現在では消滅し、確認できる数は５基程度にまで減っている。栃久保古墳群(26)は２基の円墳が発見されている。集落址は後沖遺跡(19)から前期の住居址が５軒発見されている。河川の浸食によって形成された平地である春日周辺に古墳と同時期の集落が存在すると考えられるが、今のところ集落跡は確認されていない。

奈良平安時代になると望月地域全体に遺跡が増加する。北方の御牧ヶ原台地上には官営の望月牧が所在し、付近の斜面地では須恵器の生産が行われていた。調査区周辺の春日地域では80以上の遺跡が確認され、南方の細小路川右岸に所在する新水Ａ・Ｂ遺跡の調査では平安時代の住居址が７軒、調査区西方の鹿曲川左岸の竹之城原遺跡(38)では平安時代の住居址１軒、北西の鹿曲川左岸段丘上の金塚遺跡(15)では平安時代の住居址３軒が発見されている。

中世では、西方の細小路川対岸の丘陵上に春日城跡(48)を望むことができ、丘陵が低くなり平地となった先端付近に居館跡とされる地域が存在する。居館跡の標高は770m、春日城最高地は890mを測り、比高差は120mとなる。山頂付近には主郭・二の郭・三の郭・堀切・土塁等の痕跡が認められる。

近世では調査区周辺が山岳地域であることから、信仰の場として利用されたようで、多くの石碑・石仏を山頂及び丘陵斜面に認めることができる。本遺跡南の細小路川左岸、丘陵の東壁面中程の岩陰には安永６年（1777）年に木製馬頭観音像が祀られ、さらに江戸末から明治初期にかけては付近の馬主が馬の供養・安全を祈願し、番号の刻まれた百体の石製観音像等を周辺の岩棚に祀った春日の百番観音が所在する。

参考　望月町誌　歴史編


金井坂遺跡
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
60
61
62
63

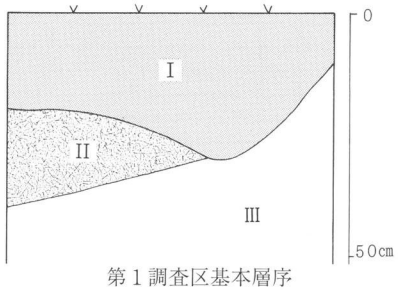
周辺遺跡位置図

No.	遺跡名	所在地	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備考
1	日向林A遺跡	協和字日向林		○			○			日向林遺跡改名日向林A遺跡
2	日向林B遺跡	協和字日向林		○						
3	日向林C遺跡	協和字日向林		○			○			ヘビ山遺跡改名日向林C遺跡
4	境沢遺跡	春日字境沢					○			
5	善郷寺A遺跡	春日字善郷寺	○				○			
6	善郷寺B遺跡	春日字善郷寺		○			○			
7	善郷寺C遺跡	春日字善郷寺					○			
8	姫塚古墳	春日字別府久保				○				
9	別府遺跡	春日字別府					○			
10	下ノ宮遺跡	春日字下ノ宮		○	○		○			
11	中道遺跡	春日字中道		○	○		○			
12	長林遺跡	春日字長林		○			○			
13	矢那田遺跡	春日字矢那田		○	○					
14	長戸遺跡	春日字長戸		○			○			
15	金塚遺跡	春日字金塚		○	○		○			
16	金塚第1号古墳～8号古墳	春日字金塚・長林				○				第4・5・6号煙滅
17	落合遺跡	春日字落合		○						煙滅
18	池田遺跡	春日字池田		○	○					
19	後沖遺跡	春日字後沖		○		○				
20	松原遺跡	春日字松原		○			○			
21	向反遺跡	春日字向反		○			○			
22	春日尾崎遺跡	春日字桂久保					○			
23	桂久保遺跡	春日字桂久保		○						
24	栃久保A遺跡	春日字栃久保		○			○			
25	栃久保B遺跡	春日字栃久保					○			
26	栃久保第1号古墳2号古墳	春日字栃久保				○				
27	栃久保城跡	春日字栃久保						○		
28	知能遺跡	春日字知能					○			
29	浦谷A遺跡	春日字浦谷		○			○			知能A改名浦谷
30	浦谷B遺跡	春日字浦谷		○						
31	浄永坊遺跡	春日字浄永坊		○						
32	大門先遺跡	春日字大門先		○						
33	北入遺跡	春日字北入		○			○			
34	春日山寺A遺跡	春日字山寺		○			○			
35	春日山寺B遺跡	春日字山寺		○			○			
36	八ッ石久保遺跡	春日字八ッ石久保		○						
37	竹之城久保遺跡	春日字竹之城久保		○						
38	竹之城原遺跡	春日字竹之城原		○			○			
39	新小路遺跡	春日字新小路		○	○					
40	宮裏遺跡	春日字宮裏		○						
41	宮平遺跡	春日字宮平		○	○					
42	下小路遺跡	春日字下小路		○			○			
43	春日支所敷地遺跡	春日字金井		○						
44	堀端遺跡	春日字堀端		○						
45	金井遺跡	春日字金井		○			○			
46	金井坂遺跡	春日字奇木		○			○			
47	井戸尻遺跡	春日字井戸尻		○						
48	春日城跡	春日字ゆる久保、法憧寺、城久保、駒込、小庭						○		
49	法憧寺遺跡	春日字法憧寺					○			
50	小庭遺跡	春日字小庭		○			○			
51	上ノ山遺跡	春日字上ノ山					○			
52	矢原遺跡	春日字矢原		○						煙滅
53	藪影遺跡	春日字藪影		○						煙滅
54	下沖遺跡	春日字下沖		○			○			
55	宮ノ入石経塚	春日字西ノ洞							○	
56	宮ノ入A遺跡	春日字宮ノ入		○						煙滅
57	宮ノ入B遺跡	春日字宮ノ入		○			○			
58	三明遺跡	春日字三明		○						
59	入片倉遺跡	春日字上沖		○	○		○			
60	城逸A遺跡	布施字城逸		○						
61	城逸B遺跡	布施字城逸		○						
62	城逸C遺跡	布施字城逸		○						
63	城逸D遺跡	布施字城逸		○			○			

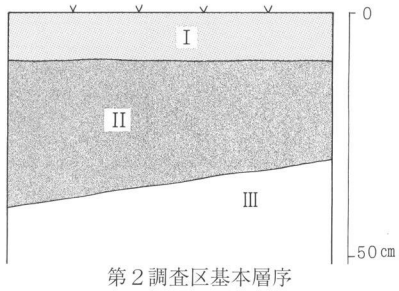
周辺遺跡表（参考　旧望月町遺跡地図）

第３節　基本層序

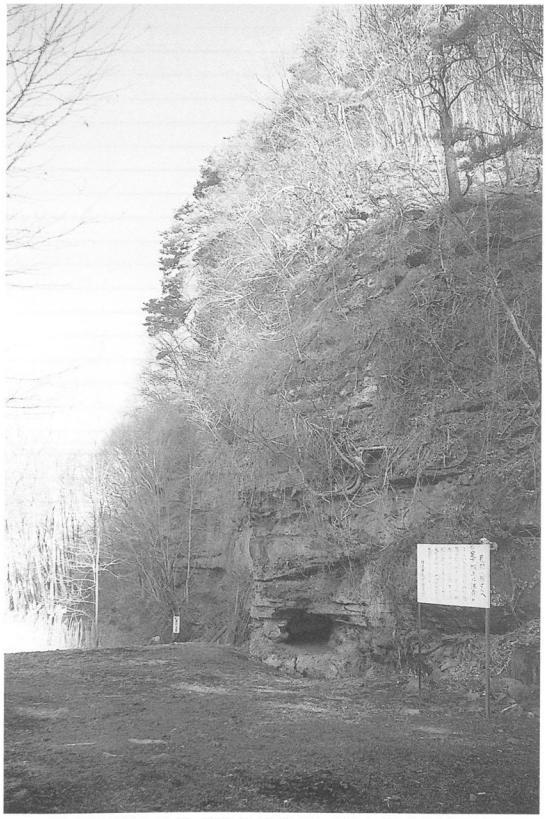
佐久市西部の旧望月町周辺は南方の八ヶ岳火山列（北端の蓼科山から南端の編笠山まで約21kmの火山列となっている。）北東の山麓にあり、この火山の噴出物が堆積した台地を鹿曲川・八丁地川・布施川等の河川が浸食した沖積地と小高い丘陵地によって形成されている。金井坂遺跡は蓼科山を南方に背負い、西方の鹿曲川・細小路川及び東方の布施川によって浸食された沖積地に挟まれた小高い北方向に延びる舌状の丘陵上に位置する。遺跡が所在する丘陵地の地盤は丘陵上の平坦面に火砕流等の噴出物が厚く堆積し、この下は溶岩流等の火山岩類となる。遺跡の所在する丘陵と沖積地である谷底平野には明瞭な比高差が認められ、特に遺跡西側の細小路川に沿った斜面には急崖となった火山岩流が露出した風景を所々見ることができる。調査区内の層序は丘陵地西側に張り出した枝状支脈先端斜面地である第１調査区で基盤の火山溶岩流表面に凹凸を埋めるように火砕流等の噴出物であるローム が薄く堆積し、上層は表土である30cm内外の厚みを持つ腐葉土となる。丘陵頂部周辺の第２調査区は基盤となる火山溶岩流の岩盤上に火砕流等の噴出物であるローム が厚く堆積し、上層に腐葉土である表土がのる。



第１調査区基本層序



第２調査区基本層序


細小路川東側斜面岩盤露出部（第１調査区付近）

第１調査区掘削後の丘陵断面状況

丘陵頂部地層露出部（第２調査区付近）

第Ⅲ章　調査体制と概要

第１節　調査体制

調査受託者　佐久市教育委員会　教育長　　木内　清

平成19年度

事　務　局	社会教育部長	柳沢　義春
	社会教育次長	山崎　明敏
	文化財課長	中山　　悟（6月まで）　森角　吉晴（7月から）
	文化財調査係長	三石　宗一
	文化財調査係	並木節子（10月から）　林幸彦　須藤隆司　小林眞寿
		羽毛田卓也　冨沢一明　神津格　上原学　出澤力
	調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
	調査担当者	上原　学
	調査員	浅沼勝男　安藤孝司　岩崎重子　江原富子　小幡弘子　土屋武士
		中嶋フクジ　萩原宮子　比田井久美子　細萱ミスズ　武者幸彦
		横尾敏雄　柳沢武　依田美穂　依田三男　渡邉久美子　渡辺長子

平成20年度

事　務　局	社会教育部長	内藤　孝徳
	社会教育次長	柳澤　本樹
	文化財課長	森角　吉晴
	文化財調査係長	三石　宗一
	文化財調査係	並木節子　林幸彦　須藤隆司　小林眞寿　羽毛田卓也
		冨沢一明　神津格　上原学　出澤力
	調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
	調査担当者	上原　学
	調査員	武者　幸彦

第２節　遺構と遺物の詳細

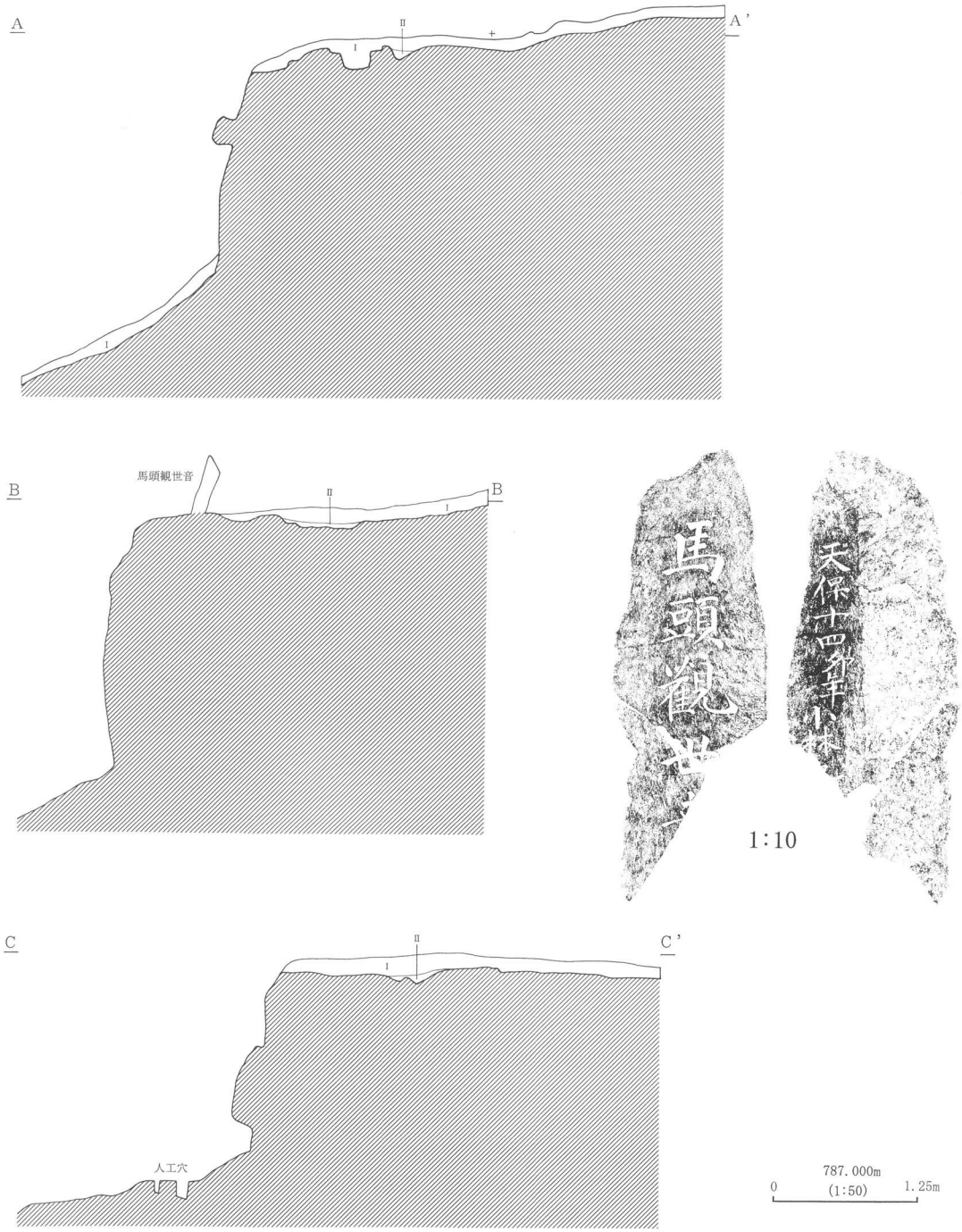
遺　構　塚状遺構３基（中世末～近世）
石積み階段状遺構（近世）
石碑関係遺構（近世～近代）

遺　物　土鍋（中世～近世）、陶磁器（近代）
刀装具（ハバキ）、土師器片、石製品

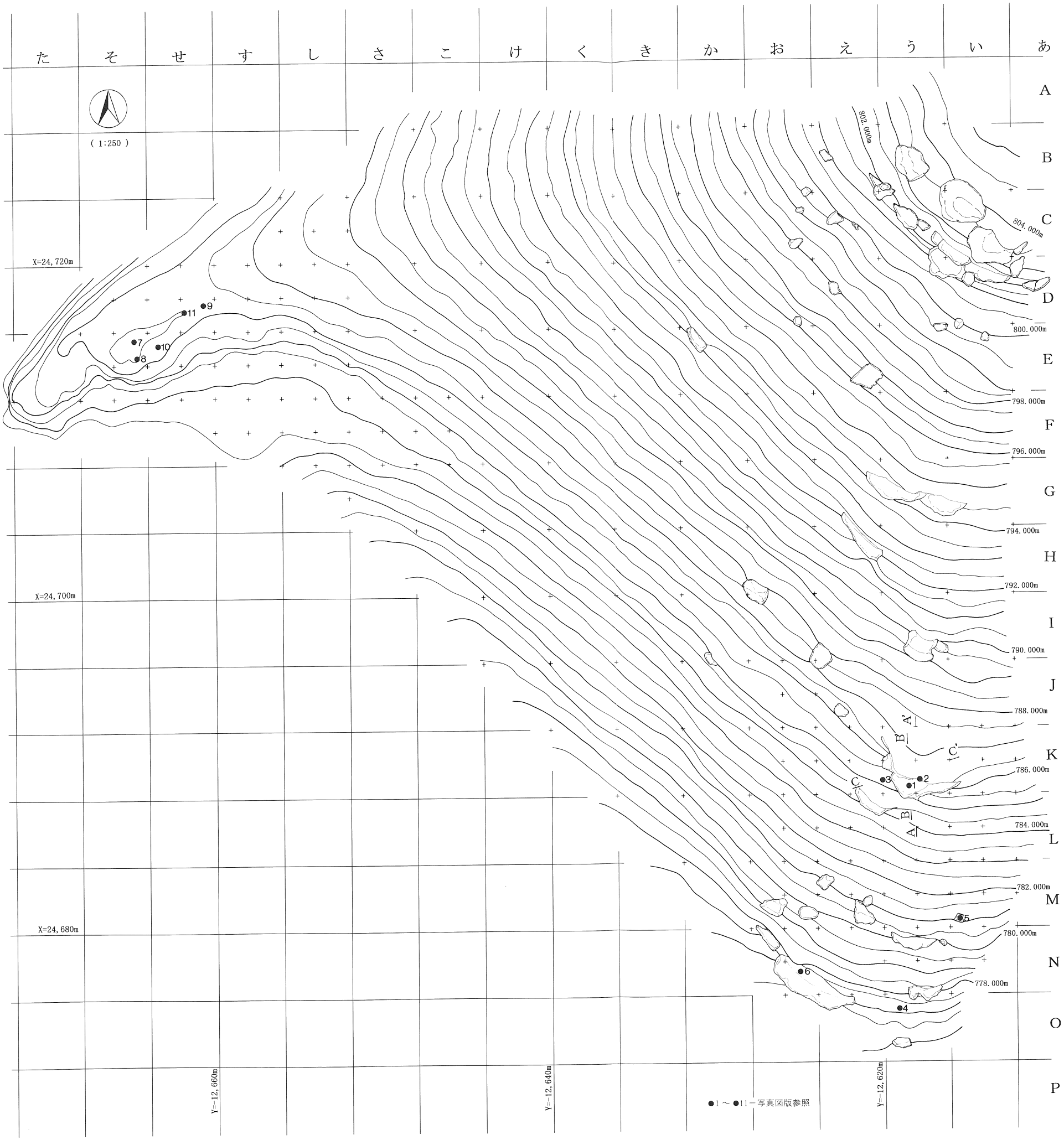
第Ⅳ章　調査の内容

第１節　第１調査区

本調査地域は蓼科山から北方向に延びる舌状の丘陵地から僅か西方に張り出す枝状支脈先端付近の斜面地周辺に位置する。標高は806～776mを測り、調査区の比高差は30mを測るやや急な斜面地である。調査区の地盤は火山溶岩流が基本であり、斜面地であることから、火砕流の堆積は僅かで、調査を実施した斜面中腹から上部にかけての大半は火山岩流の表面凹凸を覆う程度のローム上に腐葉土が堆積した状況である。このため斜面には地盤の火山岩流が顔をのぞかせる箇所が数多く見受けられ、これらの岩場を利用して石碑等を祀るといった行いが江戸時代中頃から近年に至まで行われていたようである。現在祀られている石碑には天保14年（1844年）、調査後の造成で発見された観音像には安永元年（1722）の年号が刻まれている。石碑が祀られている地域は、御嶽信仰に係わる石碑、祠、人工的な掘り込みが認められた斜面西端に突出した岩場周辺及び、自然石で造られた階段状遺構・馬頭観世音石碑・人工的な掘り込み等が認められた斜面東側中腹部周辺の２箇所に分けることができる。

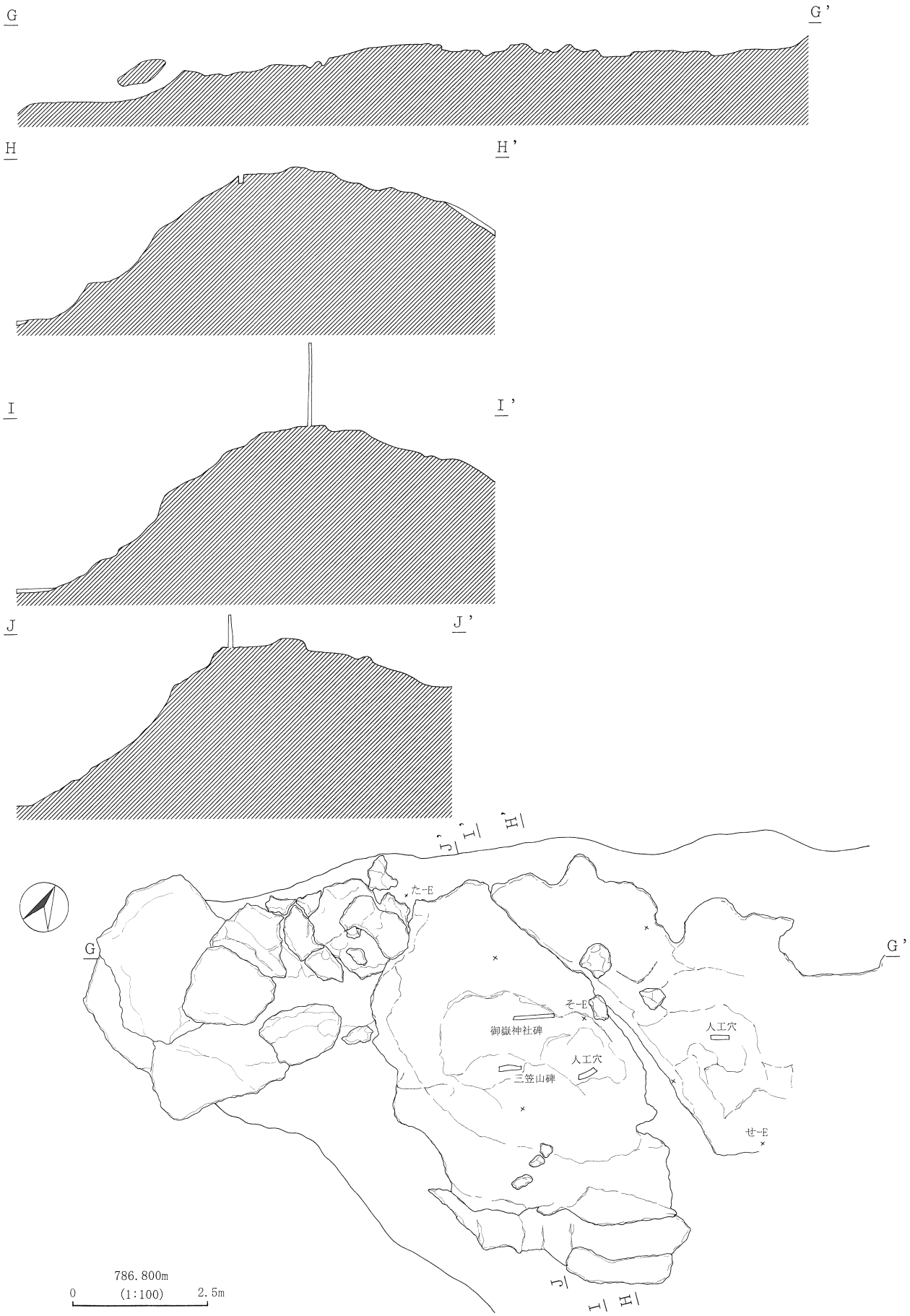


第１調査区東側斜面調査地断面図



金井坂遺跡第１調査区全体図

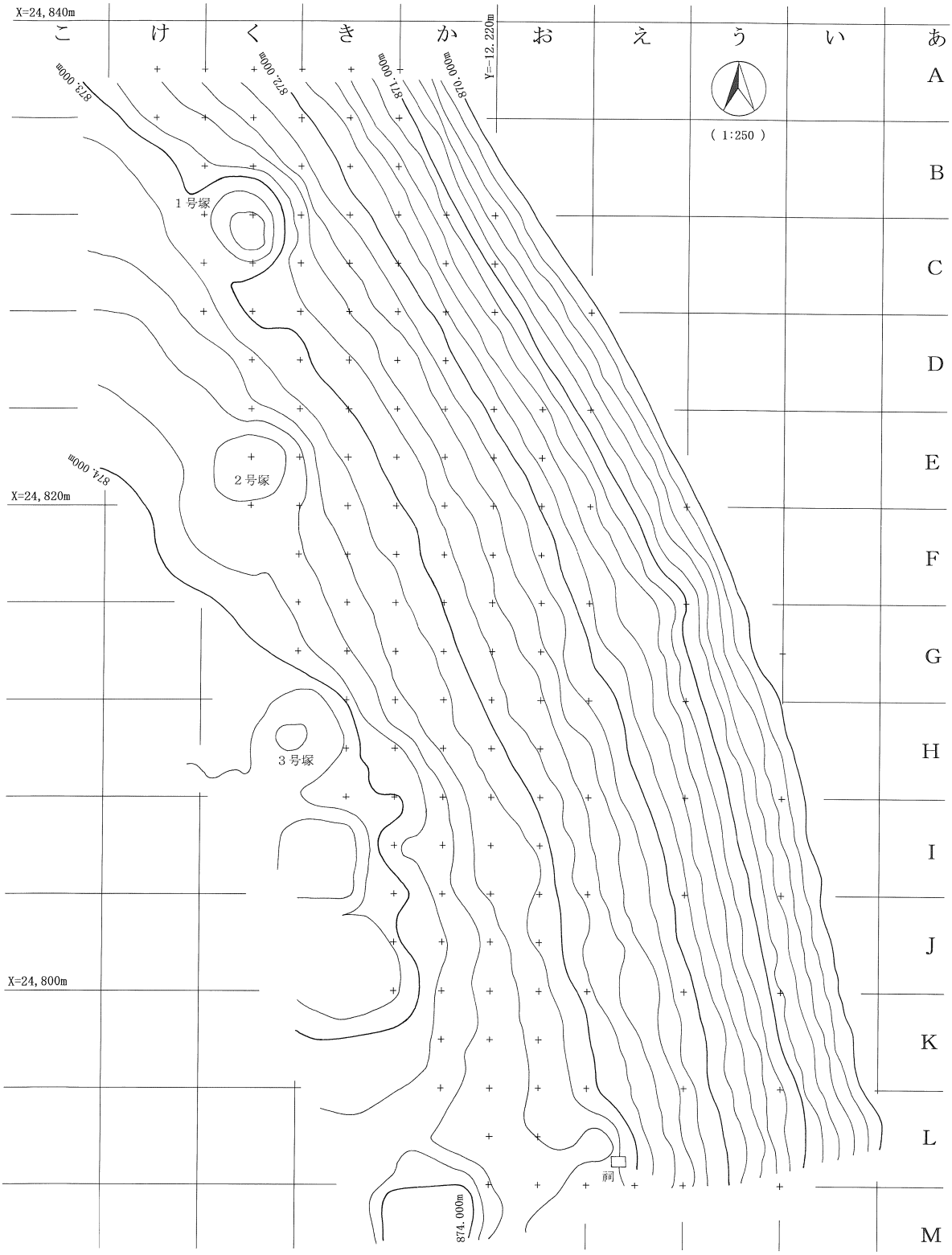
第1調査区東側斜面階段状遺構実測図



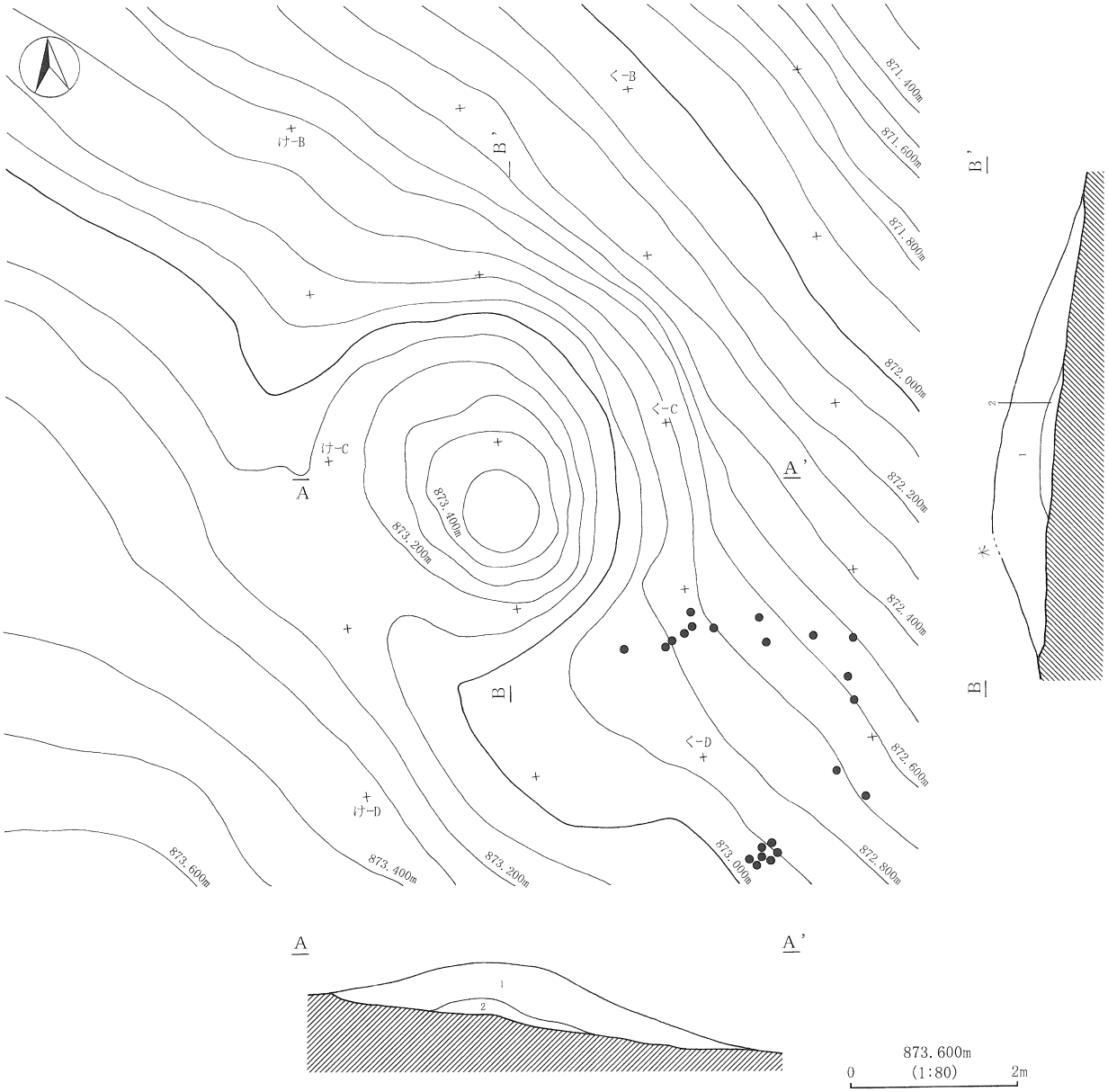
第１調査区西側先端調査地平面及び断面図

第２節　第２調査区

本調査地域は南方の八ヶ岳火山列北端の蓼科山から北方向に延びる舌状の丘陵地頂部及びその東側斜面周辺部に位置する。今回、以前行われた踏査によって尾根頂部の平坦面には南北方向に並ぶ３基の塚状遺構が認められ１号塚状遺構は全体が、２・３号塚状遺構は一部が調査地域内に含まれることから発掘調査を実施した。また、塚状遺構周辺表土直下における遺構の存在も考えられることからグリッド調査を実施した。

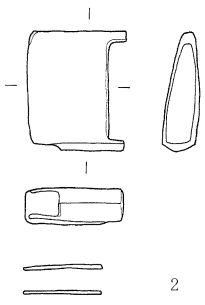


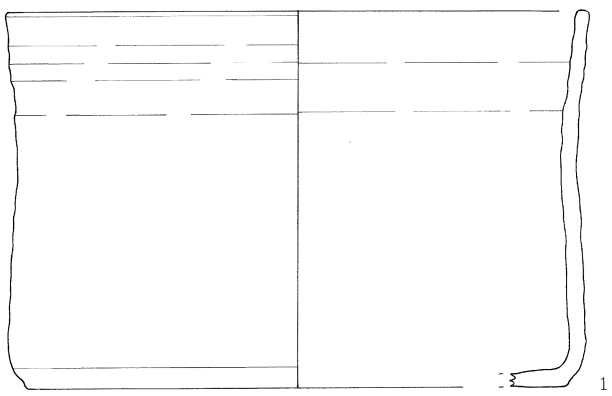
第２調査区遺構配置図



● ― 土鍋片出土位置

1．暗褐色土(7.5YR3/3) 根多くしまりなし。
2．暗褐色土(7.5YR3/4) 7.5YR3/3と7.5YR3/4の混合土。
しまりややあり。





1号塚状遺構・遺物実測図

番号	器　種		口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存状況	焼　成	色調（外・内）
1	土　鍋		[31.2]	[28.8]	19.9	口辺内外面ロクロ横ナデ	底部～口縁破片	良	黒褐色 鈍い赤褐色
番号	器　種	重量ｇ	長辺cm	短辺cm	最大厚cm	調　整　等			
2	ハバキ	14.24	3.2	2.6	1	表面薄い赤錆び付着・常態は全体的に良好・刃部に接合部			

[　　]は推定値

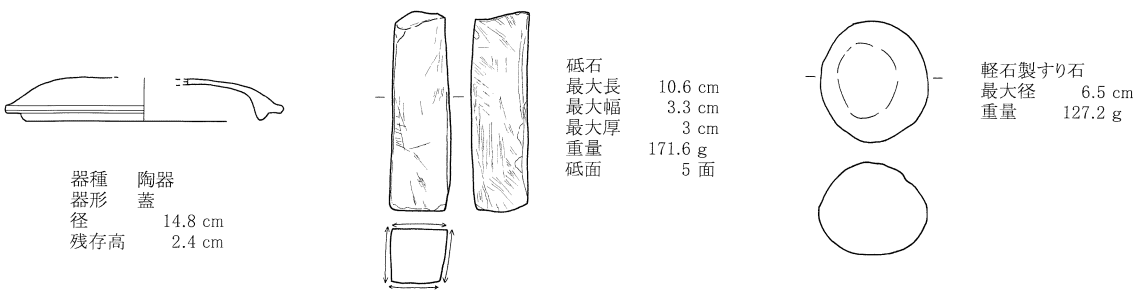
1号塚状遺構遺物観察表

Ⅰ．腐葉土層
1．暗褐色土(7.5YR3/3) 根多くしまりなし。
2．暗褐色土(7.5YR3/4) 7.5YR3/3と7.5YR3/4の混合土。しまりややあり。

874.100m
0　(1:80)　2m

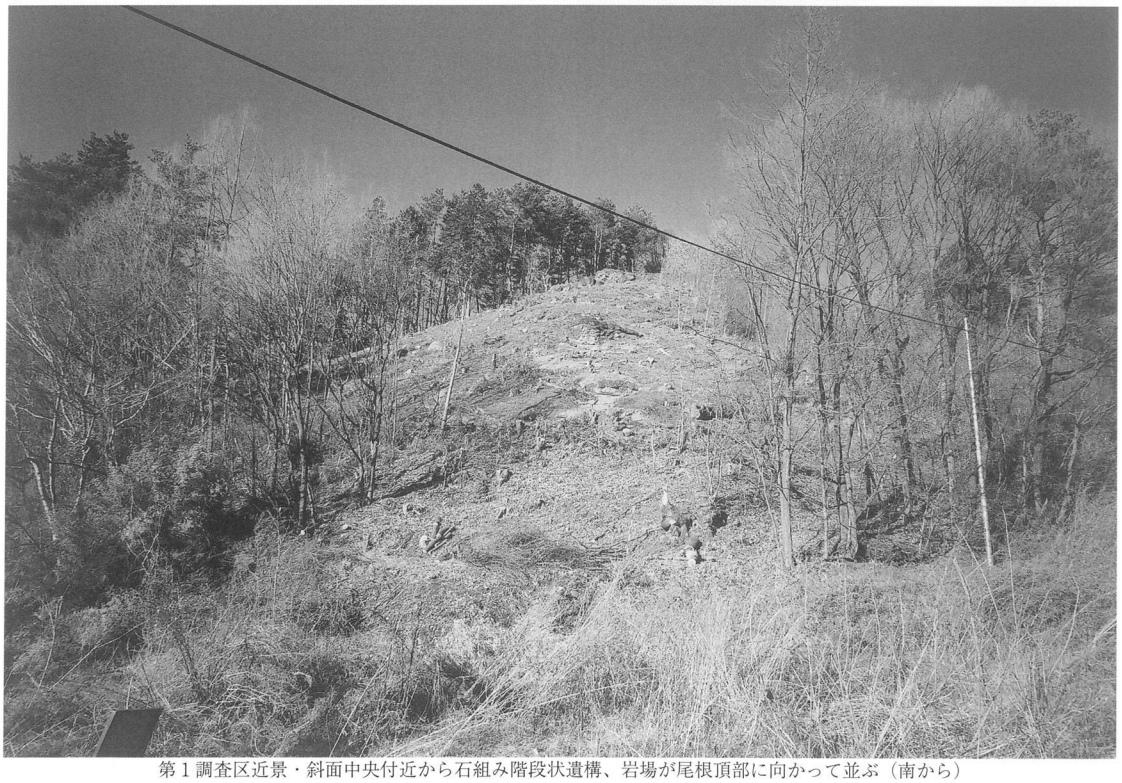
2号塚状遺構実測図

3号塚状遺構実測図



遺構外遺物実測図

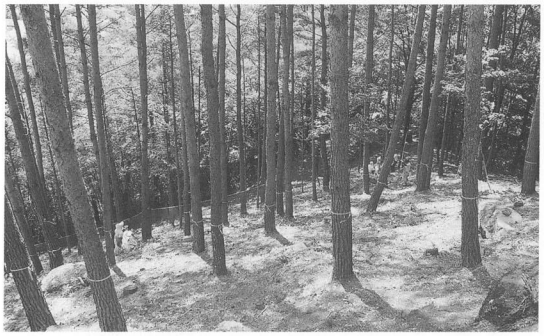
第１調査区遠景・尾根中央から先端にかけての斜面が調査地域（南東から）



第１調査区近景・斜面中央付近から石組み階段状遺構、岩場が尾根頂部に向かって並ぶ（南から）

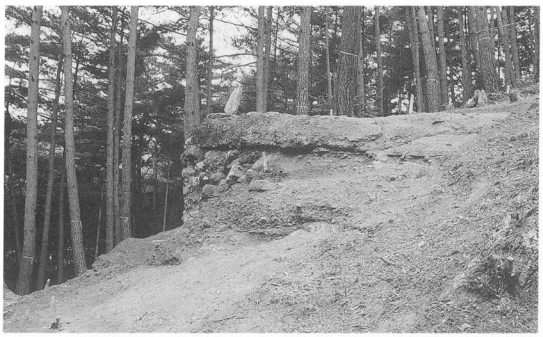
第１調査区遠景・調査区周辺松林伐採後の状況（南から）

第１調査区調査風景・伐採後の下草苅り状況（南西から）



第１調査区地形測量風景（北から）

第１調査区斜面中腹調査地周辺･中腹部に露出した岩場を利用し上部には現在下部を破損した馬頭観世音が差し込まれている。地山は岩盤で堆積土は30㎝前後の腐葉土･ローム である（南から）

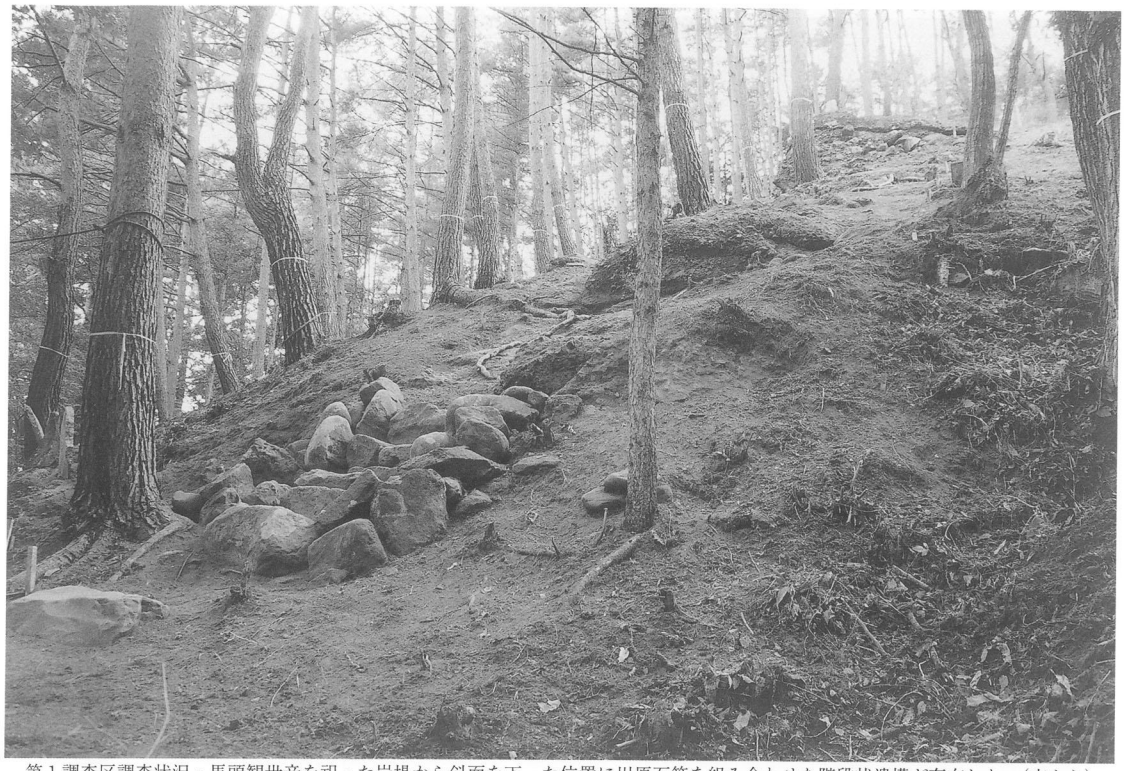


第１調査区斜面中腹調査地岩場周辺・岩場上部の人為的掘り込みに差し込まれた下部が破損した馬頭観世音（東から）

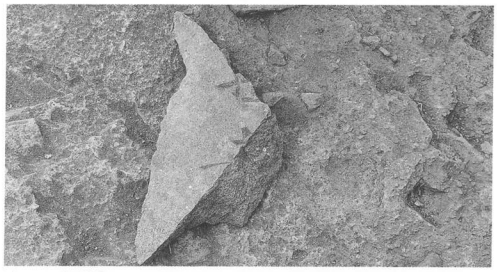
第１調査区斜面中腹岩場上部馬頭観世音及び岩場への掘り込み状況・岩場上部の堆積土を除去した結果、馬頭観世音横に石碑を祀ったと思われる新たな掘り込みが存在した。（東から）●2

第１調査区斜面中腹部岩場調査地・観世音を祀った岩場下の堆積土を除去した結果、ほぼ平坦な岩場上に人為的な掘り込みを新たに２ヶ所確認した。
（斜面上部北西から）

馬頭観世音下段の人為的掘り込み状況（岩場上部から）●3



第１調査区調査状況・馬頭観世音を祀った岩場から斜面を下った位置に川原石等を組み合わせた階段状遺構が存在した。（南から）



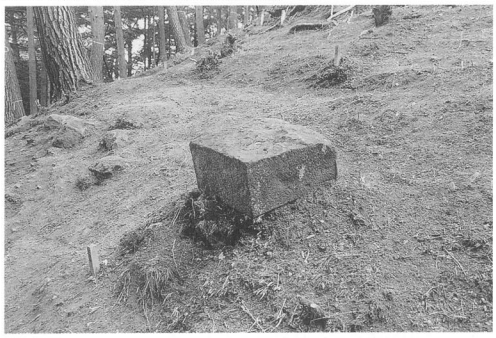
斜面中腹岩場上部堆積土中から現在岩場上部の掘り込みに差し込まれた馬頭観世音の欠損部が出土した。石碑基部の破片は今回の調査では発見できなかった。

馬頭観世音の現況・基部は欠損している。●1

馬頭観世音背面・天保十四年　卯年（1844 年）
の年号が刻まれている。

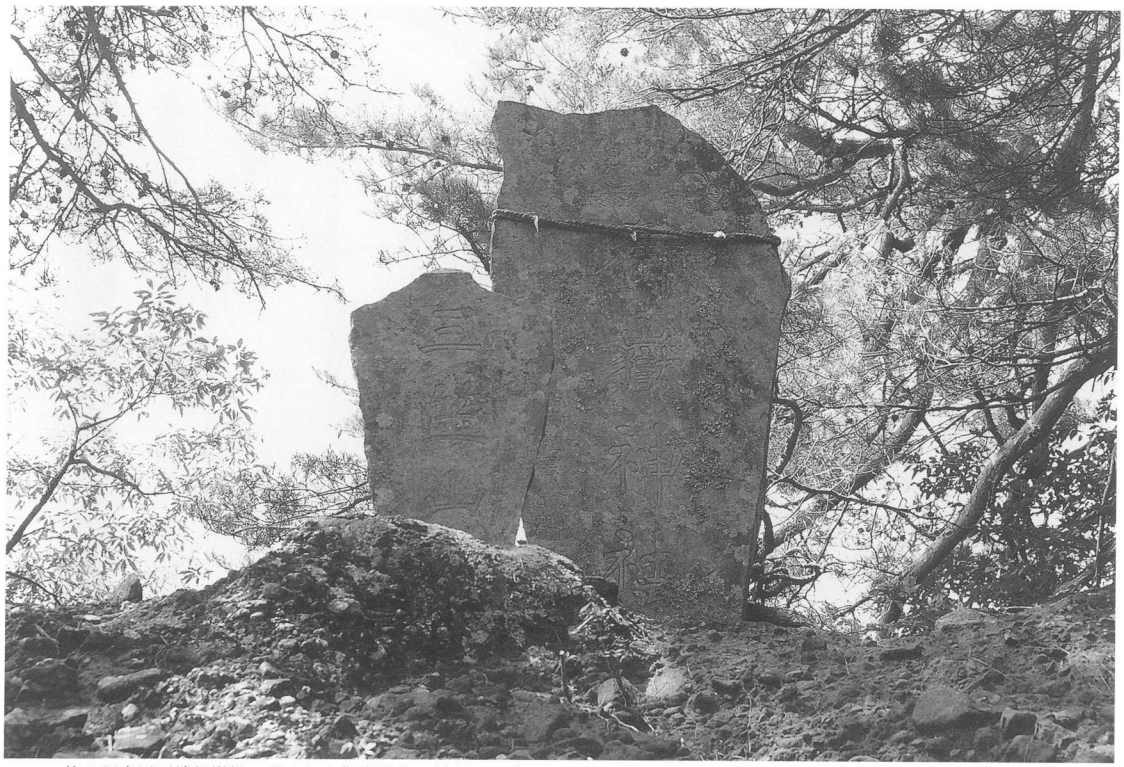
観世音を祀った岩場への入口部につくられたと思われる自然石を利用した階段状遺構。●4

階段状遺構の確認状況・完全に堆積土に覆われていないことから近年まで使用されていた可能性が伺える。



階段状遺構の斜面上部に石碑台と思われる石材が認められた。調査後の伐採作業で発見された観音像との関連が伺われる。●5

階段状遺構の西側に祀られた不動尊・無記・一心行者の石碑。●6



第１調査区西端部岩場に祀られた御嶽信仰に係わる石碑・左から三笠山、御嶽神社の文字が認められる（南から）●7・8

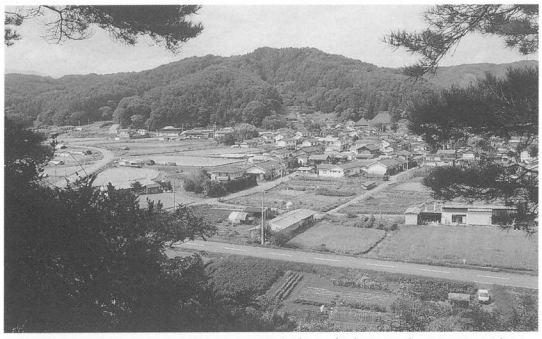
西端部岩場の石碑現況。（南から）

第１調査区西端部岩場に祀られた祠。●9

第１調査区西端部岩場に祀られた御嶽信仰石碑周辺の堆積を除去した結果、東側に石碑等を祀ったと考えられる人為的掘り込み２箇所が認められた。更に東側には祠が祀られている。（西から）●10・11

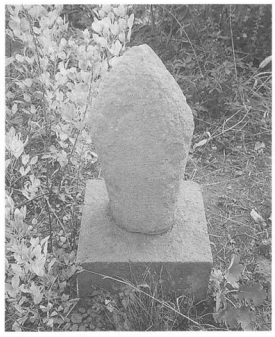
先端岩場部の頂部状況

先端部岩場周辺の調査状況。石碑下部の平坦地の表土除去作業を実施したが遺構・遺物は確認できなかった。



第１調査区西端部岩場端部から西方向に存在する春日城跡の遠景。

調査区東側石碑の移転状況



調査後の伐採で発見された観音像･背面に「安永元年壬辰十二月吉日」(1744) 等の文字が認められる。

第２調査区遠景・中央民家の裏山周辺が調査地域（南東から）

第２調査区調査前の状況（南から）

第２調査区伐採風景（南から）

第２調査区調査風景（北から）

第２調査区調査風景（南東から）

第２調査区１号塚状遺構全景（南東から）

第２調査区２号塚状遺構全景（東から）

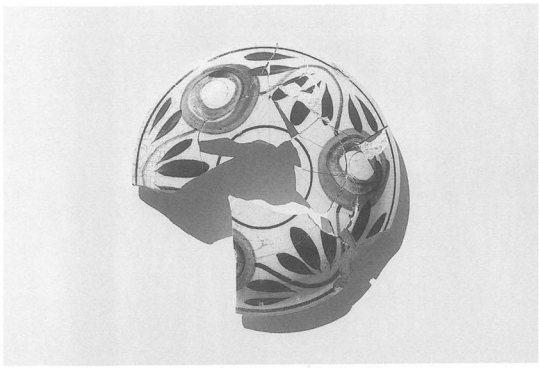
第２調査区３号塚状遺構全景（東から）

１号塚状遺構調査状況。

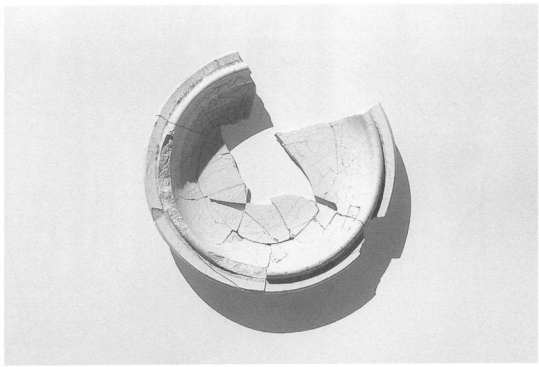
１号塚状遺構南側裾部遺物出土状況。

第２調査区全景（南から）

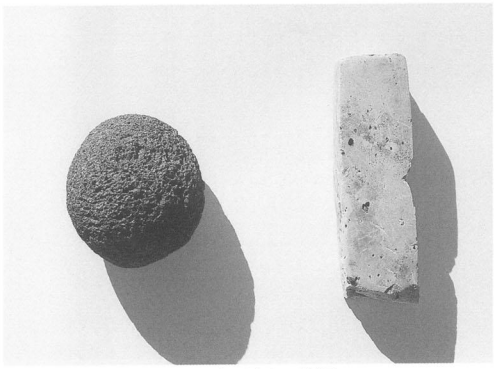
第２調査区全景（北から）



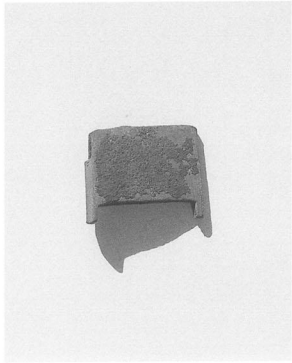
第２調査区出土陶器（上面）

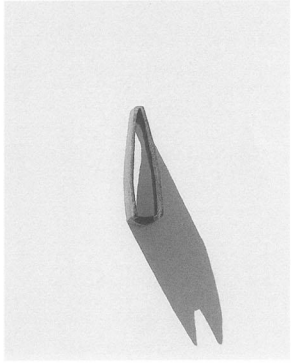


第２調査区出土陶器（下面）



第２調査区出土石製品





第２調査区１号塚状遺構周辺出土（刀装具）ハバキ

第２調査区１号塚状遺構周辺出土土鍋

書名	金井坂遺跡
ふりがな	かないざかいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第167集
編著者名	上原　学
編集・発行機関	佐久市教育委員会　社会教育部　文化財課
発行年月日	2009.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	金井坂遺跡
遺跡所在地	佐久市春日3000-7番地先～佐久市協和8381-1番地先（第1調査区　佐久市協和8379-146・147、春日5060、5061　　第2調査区　佐久市協和8380-1・2・4・5）
遺跡番号	183（旧望月町遺跡番号）
北緯	第1調査区　北緯36度13分21秒　　第2調査区　北緯36度13分25秒（世界測地系）
東経	第1調査区　東経138度21分34秒　　第2調査区　東経138度21分51秒（世界測地系）
調査期間	平成19（2007）年6月26日～平成19（2007）年9月20日（現場） 平成19（2007）年7月6日～平成21（2009）年3月31日（整理作業）
調査面積	3,500㎡
調査原因	道交付金事業道路改良工事　（東西幹線）
種別	祭祀遺跡等
主な時代	中世末・近世・近代
遺跡概要	祭祀遺跡-中世末～近世・近代-塚状遺構3+石碑関係遺構+石積み階段遺構+刀装具（ハバキ）+土鍋+陶磁器+土師器片
特記事項	1号塚状遺構周辺から土鍋・刀装具（ハバキ）が出土しているが、塚自体に付属施設は認められず性格は不明である。石碑の祀られている岩場周辺から現在は使用されていない岩盤への人為的掘り込みが表土下数箇所で認められた。
要約	南方の蓼科山から北流する細小路川に沿って延びる舌状丘陵頂上部周辺及び丘陵から西方向に僅か張り出す枝状支脈先端付近斜面地の調査を実施した。枝状支脈先端付近の大半は地山の岩盤で表面には腐葉土と僅かなローム土が堆積し、いたるところで地盤の岩が露出している。この岩場を利用して近世末から現代に至るまで石碑等が祀られ、周辺調査では表土下から、岩盤に掘り窪められた人為的掘り込みが数箇所で認められた。丘陵頂上付近では踏査によって塚状遺構が確認され、調査区内にかかる3基等を調査した。全体調査が可能であった1号塚状遺構南の裾部周辺で土鍋、刀装具（ハバキ）が出土し、遺物から中世末から近世にかけて盛り土された塚であると考えられた。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第１６７集

金井坂遺跡

2009年3月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385-8501　長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006　長野県佐久市志賀5953

TEL0267-68-7321

印刷所　臼田活版株式会社